



|              |                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 世界保健デー2023                                                                  |
| Author(s)    | 島津, 美寿季                                                                     |
| Citation     | 目で見るWHO. 2023, 86, p. 6-9                                                   |
| Version Type | VoR                                                                         |
| URL          | <a href="https://doi.org/10.18910/93466">https://doi.org/10.18910/93466</a> |
| rights       |                                                                             |
| Note         |                                                                             |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 世界保健デー 2023



大阪国際がんセンター がん対策センター レジデント

## 島津 美寿季

大阪大学在学時にタンザニア留学にて国際保健医療と出会い、帰国後は勉強会を毎月主催。野戦病院での初期研修を経て、現在は健康格差是正を夢に、疫学・公衆衛生を勉強中。

## 世界保健デーとは

世界保健デーとは、世界保健機関（WHO）が設立された1948年4月7日を記念して設けられました。この日には、毎年WHOが国際保健医療に関するテーマを選び、それに沿って、世界各国でイベントが開かれています。今年の世界保健デーのテーマは「Health for All」でした。2023年はWHOが設立されて75周年の節目の年にあたります。WHOのホームページでは、75年の間の公衆衛生の歴史を振り返りながら、今後も皆で力を合わせて健康に関する困難を乗り越えていこう、とテーマについて紹介されています。日本WHO協会では、昨年に続いて世界保健デーイベントを開催しました。

## 動画コンテスト開催

今回のイベントに先駆けて、昨年に引き続き、動画コンテストを開催しました。



図1 動画閲覧ページ

募集する動画は3分以内のものとし、テーマは、昨年のWHO世界保健デーのテーマである「Our Planet, Our Health」（わたしたちの地球、わたしたちの健康）としました。「Our Planet, Our Health」というテーマはとても難解であるにも拘わらず、個人または団体の方々から、あたたかさや熱い想いにあふれた作品をたくさんご応募いただきました。選考委員会による厳正な選考の結果、優秀賞として以下の6作品を選出しました。

1) 『世界中のみんなとカルタで遊んでみた。』

大橋由生さんの作品です。「ぶらねたりいへるす」の文字に合わせて、いろい

ろな業種の方々が、かるたでメッセージを発している印象的な作品でした。

2) 『ペットマスコット〜バカッコイ SDGs〜』

ちゃーはん 近佑一朗さんの作品です。ごみの分別やフードロスなどといったSDGsの問題をバカッコヨク解決していて爽快な作品でした。

3) 『ひとつしかない地球だから』

プロテラス映像チーム土本彩乃さん・五十嵐亜衣さんの作品です。やさしい色合いで、地球環境の大切さを考えさせられます。

4) 『考える展』

京都精華大学創作実習2022の方々作品です。絵の中に取り込まれてしま



図2 動画コンテスト受賞者のみなさんと

った女性が、海や森の汚染について考える機会を得る、ショートドラマのような作品です。

#### 5) ポピロイ星移住計画

岡山大学歯学部 4 班 近藤英知さん・中村水結さん・三宅ほなみさん・小田彩果さんの作品です。宇宙人が地球の美しさを再確認させてくれます。

#### 6) The Cycle of life

西川陽菜さんの作品です。やわらかなタッチの美しいアニメーションで、テンポがとてもいいです。私たち人間も地球の一部だ、と考えさせられました。

これらの作品はすべて、日本 WHO 協会のホームページからご覧いただけます。ぜひ、一度見た方も、まだ見ていない方も、ぜひご視聴ください。

## イベント当日

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症に対する行動指針のため、会場に参集する形式でのイベント開催ができませんでしたが、今年は、会場に講師や参加者さんをお招きして、ハイブリッド形式で行いました。日本 WHO 協会では、世界保健デー以外にもイベントを開催していますが、参加者さんと対面でお会いするのは、約 5 年ぶりとなりました。2023 年 4 月 7 日は平日にも拘わらず約 70 人の方が大阪の商工会議所へお越しいただき、また、同時中継のオンライン配信には約 180 人の方が参加してく



図3 たくさんの方に会場にお越しいただきました

ださりました。

イベント当日の開会挨拶では、中村安秀理事長が、アルマアタ宣言を踏まえて、『Health For All』について解説されました。その後、本イベントに協賛していただいた企業や、アドバイザー・グループの方々をご紹介しました。13 名のアドバイザー・グループの方々は、国際保健医療の分野で著名な方ばかりでしたが、みなさまからとてもあたたかいコメントをいただき、イベントへの期待の高まりを感じました。

その後、動画コンテストの優秀賞となった 6 作品を上映し、それに引き続いて表彰式を行いました。表彰式では、実際

に大阪の会場までお越しいただいている制作者の方には、壇上に上がってきていただき、一言ずつメッセージを言っていました。ここで初めて、動画を制作された方々とお会いしたのですが、10 代・20 代の方々ばかりで、皆様の動画制作スキルならびに、地球環境・健康への意識の高さに驚きました。

## シンポジウム『Health For All』

イベントの後半では、今回のテーマ『Health For All』を掲げて、仲佐保さん（シェア＝国際保健協力市民の会・共同代表理事）、新福洋子さん（広島大学

副学長（国際広報担当）、大学院医系科学研究科教授）にご登壇いただき、シンポジウムを行いました。WHO 世界保健デーの 2023 年のテーマである「Health For All」（すべての人に健康を！）を掲げ、仲佐保さん（シェア＝国際保健協力市民の会・共同代表理事）、新福洋子さん（広島大学副学長（国際広報担当）、大学院医系科学研究科・教授）にご登壇いただきました。

仲佐さんは 40 年前に設立された国際 NPO の代表であり、ご自身もカンボジア難民キャンプでの支援活動をふりだしに最近ではコンゴ民主共和国に在住するな

ど、世界各地でプライマリー・ヘルス・ケアを実践してきました。仲佐さんの講演「シェア＝国際保健医療市民の会が歩んだ『プライマリー・ヘルス・ケア 40 年の道』」では、仲佐さんが 1985 年にシェアの一員としてエチオピアに緊急援助のために訪れたときに、現地では緊急援助よりも開発援助（プライマリー・ヘルス・ケア）が必要とされていることを体感した体験談とともに、世界全体の国際保健医療の潮流についてお話されました。国際保健医療は、今ではユニバーサル・ヘルス・カバリッジとして、母子保健や感染症だけではなく、すべての疾患

が対象となってきています。シェアの活動は、過去 40 年で、変わったこともいくつかありますが、“様々な分野での公平なパートナーシップ”という点では変わっておらず、その理念を大切にしているそうです。国内外の格差が広がっている国もあるが、その国の中で取り残された人たちのための事業を継続し、人々の自立支援を継続するために今後も活動を続けていく、とお話されました。

新福さんは、2020 年に WHO などから「世界の卓越した女性の看護師・助産師リーダー 100 人」に選出された助産師です。タンザニアで妊産婦の健康を促進するアプリを開発し、医療在来知を訴え、人々が暮らしのなかで形成する実践的、経験的な知のあり方を探求してきました。新福さんの講演「タンザニアの妊産婦の健康を促進するアプリと医療在来知」では、新福さんが妊産婦死亡率の削減のためにやっている、タンザニアでの活動についてお話されました。妊産婦死亡率はサブサハラ・アフリカでは、人口 10 万人に対して 556 人と多く、そのような地域では医療人材が不足している現状です（日本は人口 10 万人に対して 4 人）。タンザニアでは、約半数の妊婦が、出産時に伝統的産婆が立ち会っており、妊産婦検診の受診率も、田舎では半分以下です。スマートフォンが普及している

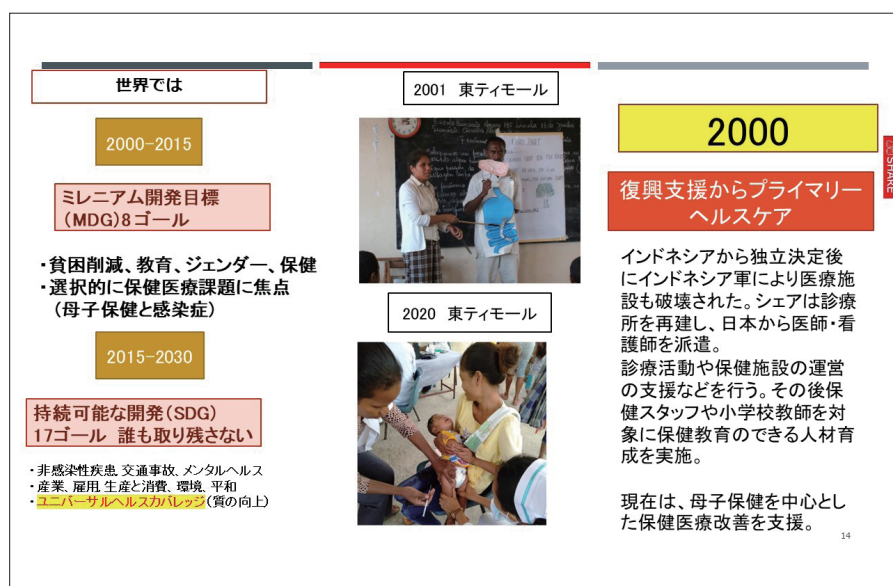


図4 仲佐 保さんのスライドより

ことを利用して、新福さんが開発した妊産婦用のアプリを利用して、教育コンテンツの配信や、SNSでの悩み相談対応などができるようにしているそうです。今後も引き続き、医療在来知の理解と積み上げを行っていく、と発表されました。

その後、中村理事長のファシリテーターのもと、パネルディスカッションが行われました。参加者の方から、いくつか質問があがり、みなさんで Health For All について考える有意義な時間となりました。

## 世界の健康を大阪から祝う

さて、今回のイベントは、現地に実際に講師や参加者の方にもお越しいただけたというもあり、とても熱気のある会になりました。普段は医療とは別の分野で活躍されている方も、この日は世界のみんなの健康を祝い、願うような1日になったのではないかと感じます。このイベントをもっと活発なものにするべく、今後も引き続き開催・運営をしていきたいと思います。来年2024年の世界保健デーでも、動画コンテストを開催する予定ですので、ぜひご興味のある方は応募をご検討してください。また、一緒に日本WHO協会や世界保健デーを盛り上げたいという方も、ぜひ日本WHO協会事務局にご連絡ください。また来年、皆様でお会いしましょう！

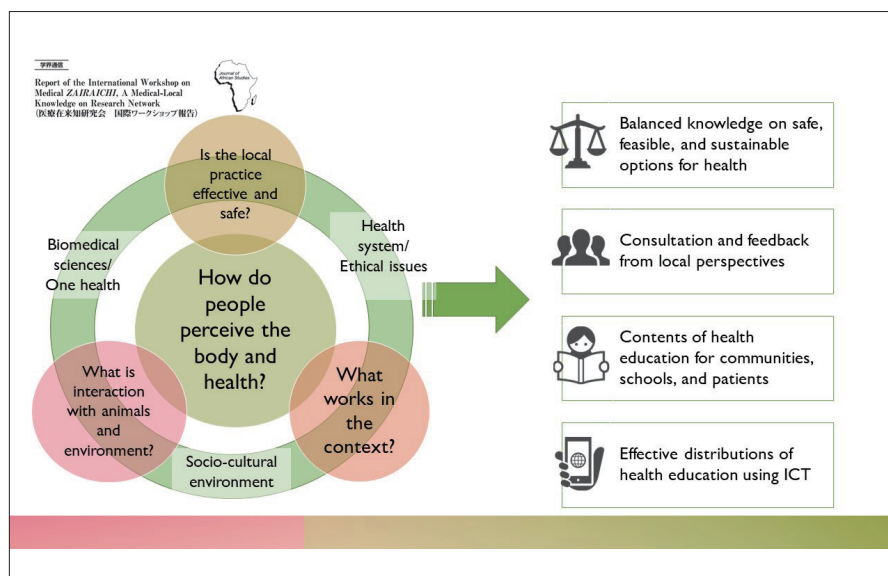


図5 新福 洋子さんのスライドより



図6 パネルディスカッションの様子